

## 交流生活圏の貫制作性

福井工業高等専門学校 正会員 武井幸久  
 福井工業高等専門学校 専攻科 ○学生員 西坂友大  
 学生員 中野雄大  
 福井県庁 正会員 浅野浩明

## 1. はじめに

現在、EU の設立(マクロ)、道州制(ミディアム)、市町村合併(ミクロ)などの交流生活圏<sup>1,2)</sup>の再編の動きが経済や環境に関する新たな共同性を具体化させる方向に進んでいる。一方、“boomburb”と称する他力的な巨大な集積と農村地帯の間さらに生態系では、多様な面での非対称性を拡大する動きも見られる。

本研究は、そうした交流生活圏の問題点を提示し、その在るべき姿の規範論的な明確化を目指す。その基盤概念は制作性(poiesis)、つまり人間の根源的な特性「つくる」こと、そして貫制作性<sup>3)</sup>(transpoiesis)である。交流生活圏が自らの部分や全体を切り裂き、再び綴じ合せ、新たな交流生活圏をつくる手続き(procedure)とその構制は、両部曼荼羅<sup>1)</sup>に表象されている。この手続きと構制に基づき、持続可能な交流生活圏をつくるための原理の基礎を提示する。

## 2. 交流生活圏の制作性

## 2.1 交流生活圏の構制

不一不二構制<sup>1)</sup>の観点では、従来の二元論(有機体・環境)を脱却し、生命の体制の有機体と環境の不一不二性に即した手続き的な過程と考える。そして、交流生活圏を有機体と環境として仮構的につくる過程の構制素が身体<sup>2,3)</sup>であり、荒川とギンズはこの身体<sup>5)</sup>を人間に関して次のように定義する。

有機体 ⇔ 人間(個, 集団) ⇔ 環境  
 organism ⇔ person ⇔ environment

図1は、身体の図式である。人間が定着し、交流する場が交流生活圏であり、わが国では江戸期に田に基づく独自の封鎖体制の交流生活圏を持続させており、既にその体制を江戸モデル<sup>6)</sup>として提示している。

## 2.2 制作性(poiesis)

生命は不一不二性の環境と有機体の持続可能な身体をつくることにより生き続ける。この制作性が交流生活圏の第一前提である。そして、表1の自働制作性(autopoiesis)<sup>2,7)</sup>の特性が地球やその部分として

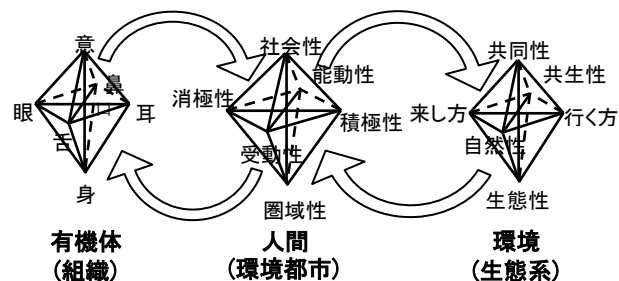


図1 不一不二構制の入れ子式・反転的な過程

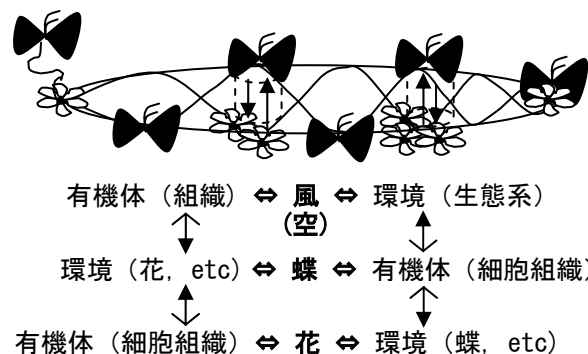


図2 蝶道：花道の交流生活圏

表1 自働制作性の特性

|             |              |
|-------------|--------------|
| (1) 自立性     | (2) 個性性      |
| (3) 境界の自己決定 | (4) 入力も出力もない |

の体制で認められる。有機体が環境に定着し、交流を行いつける交流生活圏の身体がそこにある。

例えば、図2の蝶道：花道<sup>4)</sup>では、蝶(花)を蝶(花)化する有機体、花(蝶)などの周辺性を蝶(花)化する環境とすれば、双方が有機体と環境として入れ子式に身体をつくり続ける手続き的な過程がそこにある。蝶と花の制作性の身体は、一つの交流生活圏である。

## 3. 交流生活圏の課題

## 3.1 非対称性と貫制作性

人間の交流生活圏は食料や資源の問題から単独の地域による自働制作性の身体を形成することは困難である。現状では、多くの地域間に非対称性が生じている。例えば、図3で、米をつくる交流生活圏の余裕度と、つくらぬ交流生活圏の困難度の切り裂きが生じると、その非対称性を解消・緩和するための間制作性(interpoiesis)<sup>3)</sup>としての交流が必要となる。

Key words : autopoiesis, noospheres, transpoiesis, interpoiesis, procedure

〒916-3507 福井県鯖江市下司町 12-20 Tel 0778 (62) 8301 Fax 0778 (62) 3416

このような非対称性を緩和・解消する間制作性と自働制作性の手続き的な過程の特性を貫制作性と呼ぶ。そして間制作性により、共同性の交流生活圏を身体として具現化することが重要で、その輪郭をできる限り小さくコンパクトに調整(coordinate)することが貫制作性の意義である。表 2 は福井県丹南地区における地域連携の枠組みを米に関するケーススタディとして挙げた。こうした貫制作性の身体を経済の多様な部門で確立させる必要がある。

また、非対称性は生態系でも顕著化している。道路等の建設は人の交流の活性化と生態系の衰退という非対称性をもたらす。一方、里山などは人手が入ることで、その生態性が仮構的に維持されてきた。こうした観点から、ワークショップにより、目標とする生態性を潜在自然植生の調査結果とメンタルマップの調査結果に基づいて設定し、緑化などを行う試みも既に実践している<sup>4)</sup>。これも貫制作性の一つの構想である。しかも、われわれののり面緑化実験では、陽樹のアカメガシワが著しく成長して日光を遮断し、陰樹のタブノキがその作用により成長している<sup>4)</sup>。人手を加えることで生態性(環境)が創発し、局所的な交流生活圏の非対称性の解消が可能である。

3. 2 均質性から多様性へ

近年、米国などで十万人以上の世帯数を数えながら、社会性や共同性を欠くエリア “boomburb”の問題が議論されている。日本のニュータウンも同等の問題をはらんでいる。最大の問題は、人口の急増が世代の均質性をもたらすことである。世代の均質性は思考の一元化をもたらし、世代間の智慧の交流が行われぬ。このことは、地域の共同性の欠如となって現れる。その緩和・解消もまた貫制作性に即して、検討すべき課題である。同じことは生態系にも顕著に現れている。1970 年代に国策として日本の山には杉、檜が植林された。近年、洪水、土砂災害の原因の一つに考えられるのが植林による生態性の世代的な均質化である。一様な杉林は地盤の保水性や耐久性に弱く、生態性をつくる(創発)ことはない。同じ子とは松枯れの問題にも言えることである。このように交流生活圏の均質化は非対称性を拡大することになる。このことでも既にワークショップを介した緩和の試みを始めている。

4. 交流生活圏の身体

自働制作性の交流生活圏の身体は入れ子式、反転

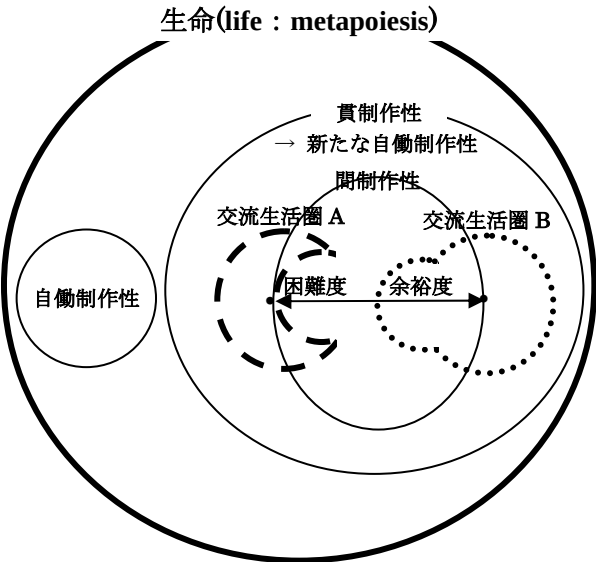


図 3 制作の困難度・余裕度

表 2 福井県内の地域連携のケース例

|     | 扶養構造      |            |               |
|-----|-----------|------------|---------------|
|     | 人口<br>(人) | 収穫量<br>(石) | 余裕度<br>(人, 石) |
| 武生市 | 73,794    | 84,000     | 10,206        |
| 今立町 | 13,909    | 13,333     | -576          |
| 織田町 | 5,284     | 8,000      | 2,716         |
| 鯖江市 | 64,896    | 59,733     | -5,163        |
| 越前町 | 6,112     | 280        | -5,832        |
| 越廼村 | 1,867     | 273        | -1,594        |
| 合計  | 165,862   | 165,620    | -242          |

的につくられる。つまり貫制作性に基づく交流生活圏の新たな枠組としてコンパクトな環境都市の次のような構制と手続き的な過程を定義できる。

組織 ⇔ 環境都市 ⇔ 生態系

これが交流生活圏の課題を緩和・解消する生態性、共同性の身体づくりの原理でありかつ、モデルである。構制として環境都市を想定できる。

5. 結論と今後の課題

本研究では交流生活圏の課題を示し、貫制作性に基づく交流生活圏の身体づくりの構制と手続き的な過程を提起した。その新たな枠組が環境都市である。

今後の課題は、貫制作性の交流生活圏の枠組としての環境都市を精緻化することで、試みはつづく…。

<参考文献>  
1) 武井幸久(1999)：「交流生活圏の交流構造」第 34 回都市計画学会学術研究論文集 pp.187-192.  
2) 武井幸久・浅野浩明他(2004)：「交流生活圏のからだに関する手続き的な再構築」第 39 回都市計画学会学術研究論文集 pp.937-943.  
3) 武井幸久・浅野浩明・西坂友大(2004)：「身体としての交流生活圏の再構築」福井高専研究紀要(自然科学・工学) 第 38 号 pp.33-44.  
4) 武井幸久・大川拓哉他(2004)：「小動物を指標とする目標生態性の達成度評価」福井高専研究紀要(自然科学・工学) 第 38 号 pp.19-32.  
5) Arakawa・Gins(2003) “Architectural Body” Univ. Minnesota.  
6) 武井幸久他(2002)：「交流生活圏のオートポイエシス」福井高専研究紀要(自然科学・工学) 第 36 号 pp.51-74.  
7) マトゥラーナ, H.R.他(1991)：『オートポイエシス』 国文社.